

会 議 録

会議名	第22回まちづくり委員会		
開催日時	平成21年11月6日(金) 午後7時00分～9時00分		
場 所	消防署小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 垣内勝司、根橋久子、三堀善業、牛丸喜美子、小澤一智、 倉田英勇、原美子、中谷一美、遠藤清文 (町) 宮原(修)、宮原(利)、殿内	出席人数	
		委 員	9人
欠席者 (敬称略)	(委員) 降旗譽男、赤羽武栄、小林代治、山寺恭子、熊谷久司	町	3人
		計	12人
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 協議事項 (1) 協働のまちづくり手引き書の活用方法について 4. その他 5. 閉会 		
資 料	(配布資料) 第21回会議録、広報12月記事		
会議結果	<p>○手引き書作成の検討をしました。</p> <p>○次回委員会 平成21年12月 9日(水) 午後7時00分～</p>		
発言者	発言の内容		
副委員長	開会		
委員長	<p>福祉部門から受賞をいただき、これも皆様からのご協力・ご援助の賜物ではないかと思えます。今後とも一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。活用方法について事務局にお願いし、文書にさせていただきました。県や国も大きく変わってきており、先日民主党の話の中でまちづくりについて支援していくといった事もあり、直接我々の身近な所においてくるかは不明確ですが、今までの支援金のような形なのか、今後まちづくり政策課でも注視していただき、地域住民に具体的に明らかにしていただく必要があるかと思えます。できるだけ大勢の方に参加していただき支援金制度を使用すれば各地区での活動がより活発になっていくと思えます。</p> <p>先日10月15日に伊那市生涯学習センターで元気支援金の優良事例の表彰ということで、私もまちづくり政策課の皆さんと聞いてきました。まちづくり政策課は、役所の側として</p> <p>どのように受け止めたか、後ほど補佐にもご発言いただければと思います。その一つの例として、中川村のランナーズクラブという団体が活発で、支援金をいただきなお活発になったようです。支援金は継続的に出るわけではありませんので、大きくすればする程、その後が大変だということで、それが協働で皆でまちづくりをする形になっていくだろうと思えます。その他たくさん事例があり、これからのまちづくりの参考になると思えました。また、支援金の使い方や内容について参考になる点が非常に多い気がします。本日は、いよいよ大詰め地域に入ってという部分についての検討に入りたいと思えます。</p>		
	協議事項		

委員長	それでは、早速事務局でまとめていただいた資料に基づき、皆さんから内容について説明いただければと思います。
A委員	1つ目は説明会の開催ということで、町とまちづくり委員会が合同で町民全体に対して一度行うということです。協働のまちづくりのパンフレットについての説明会ということで、どなたでも参加OKでNPOやボランティア団体に通知を出して、パソコンなどに協働事例を入れプロジェクターで映し出し説明する形でできればと思います。会場は町民会館の大広間程度の大きさで、興味を持った方に説明するという事です。 2つ目は、まちづくり委員の方それぞれが、自分の関係している会にパンフレットを持っていき説明するような方法がとれればと思います。パンフレットだけでは、小さいので拡大したパネルのような物を持っていき説明していただくという2つの方法を考えました。
委員長	パンフレットの説明会をという事と、もう一つはまちづくり委員それぞれ団体の代表である職の方もおりますので、自分の団体は自分で主体的にという事でパンフレットの説明をするということですね。会場について全体で行う場合は、町民会館の大広間が理想的ではないかということで、地区で行う場合はそれぞれの会合の場所で行うということですね。
B委員	基本的には、最初から大きい事を行っても潰れてしまうので、小さい集会の積み重ねで各団体で広めていければと思います。また、区長会をまきこみ集会は各区で開催するようにすればと思います。また、協働推進セミナーを開催する、この3つが基本的な考え方で、各集会は要請があった時にいつでもどこでも町職員が中心になって協働の出前トークを行った方が良いでしょうと思います。町長が言っているようにこれから職員が勉強している様々な地域にでていくという一つの考えの中で、要請があったら出て行くという事です。また、1年～2年に1回町民全体に協働推進セミナーを行い関心を高めていく必要があると思います。毎年では無くても良いが、忘れないような形の中でまた、セミナーの中でいい物は事例発表して、皆で関心を高めればと思います。講演会などを設けて行えればと思います。会場は推進セミナーは町民会館で良いと思います。その他として人の集まる場所に協働のパンフレットを置いて見てもらう。各区のコミュセンなどへの掲示を行えればと思います。
委員長	それぞれの所属団体で、うまく活用していければということですね。また、区長でなく区長会ということですが？
B委員	区長会で話をして、区長のリーダー的な人が区長に中心になって進めるように話をしていただければと思います。
委員長	協働の推進セミナーについてのお考えがあればお聞かせください。
B委員	各市町村で協働のまちづくりに関心を持って行っていると思いますが、そういったところのお話を聞いて県に相談して、良くやっている方を呼んでお話を聞いたりすれば良いと思います。
委員長	人の集まる場所に発信の場として置いて見てもらうという事ですが、先日ふれあい広場の会場の一角に置いてありましたが、部数は減っていましたか。

事務局	すべて無くなっており、皆さん持ち帰っていただいたようです。
C委員	各区長さんをお願いをして、協働のまちづくり講座という形で行えればと思います。その中で必要になれば各種団体に声をかけて開催できればと思います。集まった方の層によって、具体的な例をあげ、他市町村の例などでも良いので、すでに実施している行政に話を聞きながら行えればと思います。 手引書の説明について、大枠を決めてバラつきの無いように、誰が行っても同じ説明ができるように統一するべきだと思います。
委員長	先程A委員からもプロジェクターを使うと話がありましたが、そこまでしないとどうしても三者三様といった形になってしまうので、そこまで煮詰める必要があると思います。ポイントをずらさないように説明する必要がありますね。問題は誰がどのように行うかという部分ですね。最後にご記入いただいておりますが、3月までにできるかということで、そこが一番の問題ですね。
委員長	続いてG委員本日ご欠席ですが、これについて事務局いかがですか。
事務局	G委員より、皆様宛に活用の書類を送付する前にお話をいただきまして、委員会としてどこまでできるかという部分がありますが、町全体でフォーラムなど考える中で、松本大学の講師の方がおられるのでご紹介いただきました。
委員長	新聞で見る限り各地域に要請され行っている方ですし、現在も松本大学で地域づくりを行っているようです。講師のご紹介をいただいたので後ほど細かい内容についてご覧いただければと思います。
D委員	私の考え方は、手引書は全戸配布されているので、これについての説明会というより、委員会として協働のまちづくりを進める為に何をすれば良いかを考えていくべきではないかという意見です。具体的には先進地の視察など全員で勉強したらどうかということが一つで、今までどちらかという各団体等は協働のまちづくりを理解し協力しているので、それ以外の一般の方がどのように参加していただけるのかだと思います。各地区で開催されている町政懇談会や町長の説明は、どちらかという町長の成果報告会という事が多くて、後は各区内の要望などを重視しているので、丁度これから予算の時期に入るので町長として、こういった行事や事業は協働で行ってほしいといった方向を示していただき、その中で懇談会のような形で進めていければと思います。
委員長	先進地の視察については、行ってお聞きするといった形ですか。事業を行っても書類が残っているだけで、何も残っていないので、直接行ってお話を聞くということですか。
D委員	そうですね。
委員長	町長の方針をとということですが、現在の町政懇談会は役についた方が主体的に行っており、一般の方が中々いかないようなケースがありますが、その町政懇談会でよろしいです
D委員	そうですね。
委員長	パンフレットその物の説明会は必要なく、もう一歩進めた形で、協働のまちづくりについての研究、提言等を行えばとのこと。その中で先進地の視察は、我々委員が行くということですか。

D委員	結局委員中心となりますが、一般からも募集すればと思います。
委員長	私は、シンポジウムと協働の事例発表と表彰などができればと思います。認める物があればと思います。県なり大学の関連の講師を選んだらと思います。パネリストは地元で活躍している方に参加していただき2時間程度で行えばと思います。支援金制度があるのである程度活用するべきで、手引き書についても最後に付け加えて発表すればと思います。 難しい点は日程的な問題や、コーディネーターも早目をお願いしないといけないことです。事例の発表だと辰野町が基本となるので、逆に先進地で近隣のお話も聞ければと思います。参加者が多いから成功したとか、少ないから失敗したとかでは無く、まずはできるところから進めていく必要があると思います。今までの委員会で話があったように、各区で進めていただくことも大切だと思います。
委員長	補佐の方から先日の表彰式でお気づきになった点等あれば発言をお願いします。
事務局	支援金の関係で県より表彰をうけた団体からの発表がありました。団体がいくつかあったので、多少時間が押した部分がありました。参加者については、各団体に呼びかけていたようです。説明についても大分整理されていたので、良い発表会でした。
委員長	ちなみに中川村での支援金は、267万いただいたようです。事業費は497万ということで、全部は出ていないようです。事業を行う心構えとして地域の方たちがおもてなしの心を重視したとっていました。参加者に対してありがとうございましたという気持ちで対応したようです。参加者からのアンケートの中で、非常に心のこもった地域性のあるおもてなしを受けたとの評価を受けたようです。
委員長	大きく分けて、説明会など行うかどうかをまず決めたいと思います。いらないということであれば、それまでですが皆さんの提案の中でも各所属団体を中心にやっていただくという事からスタートすればいかがですか。前回事務局から説明いただきましたが、区長会にて話をしたとおりの政策課で説明いただくような形でいかがですかね。
事務局	区長会で課長から話をしてから、説明会に来てほしいとの話は今のところありません。
委員長	何もしないのも進める方法かもわかりませんが、何かありますか。
B委員	スライドで協働のまちづくりのストーリーを示すようなものはありませんか。
委員長	スライドは無いようです。
B委員	一つのストーリーで見ていただいて、考えていただき楽しんでいただければいいんですがね。
委員長	やるとすればパワーポイントで行うかですね。
B委員	ストーリーがあって協働を実践して、達成したようなものができればいいんですがね。
委員長	先日のフォーラムで協働のまちづくりという言葉が出ませんでした。時代が変わってきた感もありますし、見るポイントが変わってきた気がします。 中川の方は相当前向きに考え地域の方達を巻き込んでいますが、協働のまちづくりといった考え方では無い部分もあります。事務局では、どのような感想を持ちましたか。
事務局	確かに協働という言葉は出ませんでしたね。今回のフォーラムはあくまで、支援金の関係で、事例紹介という形でした。

委員長	基本は実行委員会で行い、地域の人たち皆が協力しているので全体的には協働のまちづくりなのですが、それに対して言葉として出てきませんでした。協働が始まった頃と比べて若干変わってきた気がします。中身的には協働なのですが・・・ 県でも資料など無いというのはそういった意味なのかと感じます。
委員長	パワーポイントを作るにしても相当な労力が必要になってきます。
B委員	無ければ難しいですね。我々の期間内にはできませんね。
委員長	できることをできるだけやるという考え方でないと、これでこの委員会を閉じる分けにもいかないの、各団体や地区でこれを使えればと思います。 事務局の方でパワーポイントなどがあるか確かめてもらえますか。協働だけでなくも支援金などでも良いので。まちづくりや地域づくりという部分が残っていれば良いので調べていただくようお願いします。各団体でパンフレットだけ説明するよりもスライドなりパワーポイントなどで説明できれば、関心も高まると思います。
事務局	前回出前講座がどうかと話がありまして担当でも県に問い合わせたりしましたが、今言われているような部分は見あたりませんでした。先程委員長が言われた支援金の関係も支援金を受けた中での事例発表という形で行っているの、そういった物は少ないと思います。 先程D委員さんが言われたように、まちづくり委員会の中でこういった形で今後進めていくかという部分で、今出てきているシンポジウムや説明会をやるのかどうかということが一つと、やらない場合に他に何をやるのかを考えて決めていただかないと、ここ数回の委員会では、皆様のご意見は聞いているがその集約をして来年3月までに何をするか決めていただいた方が良いと思います。資料など調べることは事務局で行いますが、そこら辺のご協議をお願いしたいと思います。
委員長	今のお話のとおりスライドや出前講座は無いということですが、いかがですか。
B委員	できるところからやるということであれば各団体のPRを行うとすれば、委員長が言ったシンポジウムをまず1回開催してみるくらいですね。 区に持ち帰っても・・・
委員長	区も来年3月で終わりになるので、スタートからいければ年間行事厳しい中で日程を設定していただく事も可能と思いますが、途中からは難しいと思います。区会や常会長会などで周知していただくしかないと思います。 とにかく、シンポジウムや説明会をやるかどうか決めなければなりません。
B委員	今日やるかやらないか、白か黒かはっきり決めてしまわないと前に進んでいかないと思います。
D委員	手引書の説明会は、必要ないと思います。協働にこだわらなくても良いので、町や県の支援金の制度の説明会をすることによって皆に感心を持ってもらう事が一つと、ある意味で来年は協働を進めるチャンスだと思います。御柱を一つの協働という形で持って行くのも良いかなと思います。皆が楽しめるお祭りという形で持って行けば成功する気もします。

副委員長	保存版の説明会は必要ないと思います。説明しなくても良い内容で作成したと思いますので必要ないと思います。御柱にという話ですが、元々協働が出来上がっている行事だと思います。そこで何かをするという事は難しいと思います。
E委員	宗教的な違いで参加出来ない方もいます。そうした場合に皆が集まってまちづくりという部分が難しいと思います。やることそのものは、昔からやっているまちづくり、地域づくりだと思いますが・・・
委員長	内容的には典型的な協働だと思います。
副委員長	どんなイベントにしても全住民が参加する事は難しいので、出られる人、協力する人、楽しむ人がいて十分協働になると思います。
委員長	色々意見をいただきましたが、各区は御柱を抱えていて、区の方に委員会としてお願いする事は難しいと思います。解りやすいパンフレットを作成したので、これを活用する為にできることとすれば、各団体の責任者や代表の方が多いのでその中で活用していただくということで第1段階はよろしいですかね。但しその場合に委員さんが主体的に動いていただく事が当然だと思いますが、協働は行政が入ってきますので、まちづくり政策課から担当職員が出てまた資料を持っていただいて説明をしていただくようお願いします。その時には是非支援金制度があるからには使うべきだと思います。各団体きっかけになるお金が欲しいと思いますので、県、町の支援金を説明していただきたいと思います。広報やHPを活用して行政の持っている情報を明らかにすることが必要だと思います。支援金制度があれば明らかにしていただいて少しでも上手く活用できるようにしていただきたいと思います。以前宮田村での件数を申し上げましたが、町内ごと1件ずつ位活用していました。1回で終われば価値はありませんが、その後どうなったか知りたいところです。
委員長	行政も資料と職員が行って話をしていただければと思います。
B委員	先程言ったように昨年御柱がある事を頭において、区からは要請があった所へは行き、要請が無いところには、無理してやりなさいと言えません。あくまで要請があった場合に、我々と行政と一緒に行えればと思います。それで3月までに1回シンポジウムを行えばと思います。講演や事例発表で形にすればと思います。
委員長	一番良いのは、何かセレモニーというか事業を行えば、終わりになると思います。
B委員	とりあえず我々の任務とするとそこまで行えば良いと思います。
委員長	我々がずっと委員という事ではありませんので、限られた時間の範囲内でどういった方向か方向付ければ良いと思います。
B委員	人が変われば色々な意見が出てくると思います。
委員長	まちづくり委員会は来年の3月31日までですが、その後の考えは町としていかがですか。まちづくり委員会は残さなければいけないなど、いかがですか。
事務局	前回のまちづくり委員会の後に、今後の方向ということで、手引書、評価の話が出ているので、3月31日の任期が終わった後まちづくり委員会として、やる事があればその旨の中で、開いていく事となりますが、今の部分の中では、具体的にはでてきていません。
委員長	この委員会しだいと言う事ですか。

事務局	3月31日の任期の中で、今までやってきた事を答申していかなければいけないので、一つは手引書を作成したという事と手引書の活用方法については、置いたり各種団体を使っていく方向という事、シンポジウム等を行えば広めるために行ったと答申していく事になります。今後まちづくり委員会として進めていく内容等があればそれを基に今後進めていく事となります。現在では、はっきりしておりません。
委員長	委員会しだいようです。評価の部分は発表会で皆に認めていただければ評価だと思うので委員会として良否の判断はできませんので、良い部分を認める評価ならできるので、シンポジウムや推進セミナー等ありますので、事例発表を行えば評価になると思います。
E委員	パンフレットは全戸配布されたんですよね。その事でまちづくり政策課にどなたかから声は、届いておりますか。
事務局	今のところとくにありませんね。
委員長	区長会からも0だったようです。ちなみに質問された議員さんはいかがですか。
E委員	何かあると良く連絡が来るんですが、これについては、良く出来ているのか問い合わせは来ないです。
C委員	区長さんからは、多分来ないと思います。次行う事を考えていると思いますので3月までは、来ないかしれません。
委員長	区長さんにおんぶでは無く、推進セミナーやシンポジウムや事例発表などで総括して行えば、こんな良いところがあると気づく場が必要だと思います。
E委員	他市町村でこういった物は作成してはないですか。
事務局	指針みたいな物は前に作成してありますが、手引書はどうですかね。
委員長	インターネットで検索すると指針くらいの内容の物はありますが、写真付きで作成しているパンフレット形式は見つからないです。
委員長	パンフレットを県の協働関係部署に送ってありますか。
事務局	とくに送ってありません。県の以前あった窓口が現在ないので・・・
委員長	送って下さい。こういった事は外からも何か来るかもしれません。せっかくなので、HPでも公表して、外からみていただく事が大切です。
F委員	パンフレットの為の説明は不要だと思います。先程委員長さんが言いましたが、協働がほとんどのところで頭に無いよと言えばその通りだと思います。長野県で先をいっているのは小布施だと思います。小布施は先を考えたまちづくりができていてアイデアがどんどん出てきています。そういったアイデアに皆がついてくる。そういった事を聴いてみたいと思います。
委員長	あえて協働のまちづくりと言わないで、頑張っている団体も沢山あるので、中川の団体も協働のまちづくりというより地域づくりや仲間づくりで活動をしています。
F委員	小布施は歴史と地域の特徴を生かして、いきの長いまちづくりになっていますね。
委員長	小布施も県の出向職員をいち早く取り入れて観光のノウハウを取り入れたようですね。
B委員	やり方については、後で検討するという事で、まずやるかやらないかの部分、整理しなければいけないと思います。先程の話の中で、区から要請があれば出向き、最終的に3月までに1度しめを行うということでいかがですか。

委員長	いかがですかね。まず第1ステップとして、それぞれの団体にパンフレットを使用してお話をしてもらえればと思います。次に、第2ステップとして前回からの引き継ぎ事項である評価の部分に入っていき、推進セミナー、シンポジウム、事例発表あるいは、先進地の視察などの方法で、やっていただきたいという事で方向付けしていけばいかがですかね。
A委員	手引書の活用とすれば、シンポジウムをやる事は必要だと思いますが、その中に手引書の説明は少し入れた方が良いでしょう。
委員長	委員会が出ることになれば、まちづくり委員としてやってきた経過とパンフレットを参加者に配布しその中で発表できればと思います。一つの事例として、写真が載っているので、そこを説明していけばと思います。シンポジウムなのでパネラーにどのくらいの時間を割り振るかは、決めなければいけません、その中で委員会で誰かに出ていただいて、そこで説明すればまちづくり委員会で作成したことが解るとは思いますし、広めることができます。また、委員の皆さんには、各種団体に帰った場合でもパンフレットを持ち帰っていただき、説明していただければ良いと思います。
D委員	手引書は協働のまちづくりや活性化を進めるためのツールだと思います。それを一生懸命説明するのではなく、活性化するときに参考にして下さい程度で良いと思います。これを一生懸命説明してもこれを読んで、やりたいと手を挙げてくれる人がでなければ意味が無いと思います。いかにして、協働にこだわらなくても良いので活性化の為に行事をやりたいたい事を引き出すかに焦点を絞るべきだと思います。
E委員	何か活動したいという気持ちに結びつけば良いと思います。手引書の説明は必要ないと思います。
委員長	話の過程の中で発表できればと思います。
B委員	今委員長が言ったことは、一つの経過報告の中で発表できればという事です。それを重点でなく、何かあった時の参考になればと思います。どうやったら協働を引き出せるかといったシンポジウムになればと思います。
委員長	小布施の町長や副町長、観光課長などでも良いですし、中川村ランナーズの方などでも良いですし、県内でも県外でも沢山の事例があると思いますので、その方を核にしておいて後に地域の事例など出していただくのがシンポジウムだと思います。
A委員	協働のまちづくり支援金事業は町で規程がありますよね。それは、まちづくり政策課に聞きにいかば教えていただけますか。
事務局	H Pにも出ていますし、この委員会の中でも以前に一度担当が説明に来ています。県の支援金や町の支援金についての説明はできますが、長時間の説明でもありませんので、先程お話していた中では支援金を活用して地域づくりを進めている事を住民の皆さんに知っていただく事が、まちづくり委員会の方向だと皆さんおっしゃっているので、それをいつやるとかそこら辺にまとまってくると思いますが。
委員長	この委員会で発表されても困るので、本来は区長さんですね。

事務局	まちづくり委員が何をするかと話しをしているので、それを区でやるべき事であれば、まちづくり委員会では行わないので、次何をやるかということになります。まちづくり委員会が3月まで任期のある中で、シンポなどをやるかやらないかという事の話をして、やるのであれば何をメインで行い地域の事例発表をするなどの方向付けをしていかないと、前回からも話が出てはいるのでそこを検討していただきたいと思います。
D委員	丁度支援金の話もでているので、支援金活用シンポジウムというような名前では是非開いて欲しいと委員会として町の方に提案しては、いかがですか。その内容については今意見が出ていますので、先進の人から講師に呼んで下さいとか注文をつけてある程度方向付ければやっていただける、こういう形にとっていいんですね。
委員長	これは委員会がやるのかそういった問題ではないですね。
B委員	委員会は筋書きを作れるが。
委員長	提言をするだけで良いので。
B委員	それに基づいて、どうやるかは別の世界です。その中で、まちづくり委員会としては、経過報告程度だと思います。
委員長	その中で少しで良いと思います。名前はシンポにしても推進セミナーにしても事例発表会でも良いですが、先進地の事例を一つ見つめていただいて、町内で発表していただくということで良いですね。支援金を頭につけるつけないは別問題として、我々が支援金を決めた分けで無いのでそれに応える必要はないですね。これでよいですかね。やって下さいという事で。
事務局	今まで町で色々企画した事に対して魅力が無いという意見があって、住民の意見を聴かなければいけないと言う事で始まったんですね。町が企画して実行するだけでは今までの何も変わりません。
委員長	だから今決めたじゃないですか。
事務局	お客さんが来てくれる事は何かというと、まちづくり委員会が何かこれをやりたいからといった物があれば来ると思います。町が全てお膳立てしたもので来て下さいといたら今までと何も変わらないのでそこはもう少し考えてもらった方が良いでしょうと思います。
委員長	例えば小布施の町長を呼んで下さいと言えばこの委員会で決めたからやってくれると言う事ですか。
事務局	ただ呼んできてやるだけでは、今までと変わらないので、まちづくり委員会の色がでなければと思います。
委員長	提言なので。
事務局	それで魅力があるかということです。
委員長	魅力がある、無しではなく10人だから成功とか3人だから不成功ではないと思います。

事務局	まちづくり委員会としての形をつかって提言を上げばよいと思いますが、委員長が言われたように、やってくれるのかい？といった形では、まちづくり委員会が設置された意味からすると今まで行政が進めてきた事を、住民の皆さんと一緒にまちづくりを考える事だと思いますので・・・それが、指針や手引書だと思います。後期基本計画については、まちづくり委員が諮問機関として携わった経過があります。後期基本計画の評価などは、難しいと今まで話がされ、その中で講演会や説明会で良いと話しが出て、今度は、委員会がやるべき事では無いから提言すれば良いといった話になり、今までまちづくり委員会として検討してきた部分から考えると少し違うと思います。まちづくり委員会の考えや意見の中で実行することであって、役場で行うのであれば今までと変わらないと思います。
委員長	そうでなくて企画の部分は、今まで出ていて、ただしいつやるかとか講師をどうするかというのは、お金の問題などあるので、我々が講師を指定して呼べるわけではないので呼んでもらえますかという意見です。
B委員	今ここで討議した結果、大体やる方向で決まりました。方法については、小布施や中川の方達の話をお聴きする事もいいと決まったら、交渉などやっていただけるかと聞いただけです。
事務局	それは、こちらでやります。
B委員	答申については、文章でまちづくり委員会としての考え方を纏めてお開きにするということで良いと思います。
委員長	ひきずる部分は答申として出さなければと思います。できない部分は答申として必要であれば出していきます。ただし、当面はこのままだまっても進まないのなるべく早くあたっていただかなければ進みません。それをしていただけませんかと言ったら、行政としてやれば・・・内容すべてではないのでどうだという事です。
B委員	今から準備しても2月くらいしかできないので、先生の都合もあるので今から準備しなければいけないと私は思います。
事務局	まちづくり委員会の中で2月に開催するので、この人を呼んでくださいという話でしたら当然やります。先程の話はそういう風な話ではなかったように聞こえたので。
B委員	そちらの負担が増えたなあというように聞こえましたか。
事務局	そういう事ではなくて、今中谷委員が言ったように2月に開催し、講師を呼び地元のパネリストの方たちをお願いするといった事であればその方向で良いと思います。
B委員	企画というか、内容そのものについては、この委員会で決めなければと思います。
委員長	講演なり、中心になってコーディネーターという事は簡単では無いので、講師の先生の予定も半年程先まで埋まっている可能性もあります。
B委員	内容そのものは後で良いのでまずやるかやらないか決めなければと思います。
委員長	この先生も新聞にも多く載っていますし、大学の講義もあると思いますので、2月の空いている日を聴いて受けていただけるかということですね。
委員長	それでは、福島先生をお願いするという事でいかがですかね。
A委員	主催はどことしてやりますか。

委員長	協働でやります。お金が出るのは町ですかね。
A委員	この委員会が存在をするならでわのシンポジウムになればと思いますが、個別の事例があれば今までと違うという事で良いですかね。
委員長	とにかく講師は忙しいので聴いていただき、あるいは先日の中川の方に話しを聴いてみることも必要だと思います。
B委員	苦労話を聞いてみることも必要ですね。
委員長	事務局で先生に聴いてもらえますか。
事務局	講演をお願いするということによろしいですか。
委員長	基調講演というかコーディネーターをしていただくということです。基調講演というか講話というか解りませんがそれに基づいて、話をさせていただきコーディネートしていただければと思います。
事務局	テーマは「協働について」でよろしいですか。
委員長	協働の事例が良いです。町内でもいくつも事例がありますし、支援金の事例もあると思います。それは、後で決めることですのでとりあえず聴いてみて下さい。
事務局	お願いするに当たり、何をどうするという事を説明しなければいけないと思いますのでいかがですか。
委員長	協働のまちづくりについての基調講演をお願いしコーディネートしていただくという事です。
事務局	先生のプロフィールに元気な地域づくりというものがありますので、そこに協働を含めた中での講演をお願いするという事で良いですか。
委員長	コーディネートはお願いしないと、事例発表があるのでお願いしていただきたいと思います。
A委員	コーディネートと講演は違うと思います。
委員長	違いますね。
A委員	講演は先生にお願いして、コーディネートは別の方を探しても良いと思います。
委員長	講演をした方が、コーディネートする方が良いと思います。講演と関連した中で行えば講演の中にも事例が入ってくると思います。内容については、1回で決まるもので無いのでこれから詰めていけばと思います。
事務局	日が空いているか確認を取ります。講演時間はどの位とりますか。
委員長	それは、まだ決めなくても良いと思います。
事務局	平日の昼・夜、休日の昼・夜は、どちらがよろしいですか。
委員長	とにかく空いているところを聴いてみて下さい。多分空いている日は少ないと思います。
B委員	無理であれば、苦労話を聞いたりすれば良いと思います。
委員長	それでも良いと思います。できれば評価の部分が入ってくるので。
事務局	例えば講演が30分あり、その後コーディネートしていただく発表団体をいくつくらいお願いする感覚ですか。
委員長	3〜4つですね。3つ位ですね。
事務局	2時間くらいでよろしいですか。

委員長	良いと思います。実際やっている方なので、一番盛り上がるポイントなど解っていると思います。基本的には協働のまちづくりの話をさせていただいて、辰野町の各箇所で行われている元気な協働事例について発表していただき、3つ程の事例を紹介できればと思います。その中で相談すれば良いと思います。
D委員	開催をいつにするかによって、時間がかかなり変わると思います。例えば、休日の午後や平日の午後であれば時間も限られてくるので、そこら辺の方針を出さなければ時間は決められないと思います。
委員長	とにかく空いている日を聴いてみて下さい。日を先に決めることは難しいと思います。
D委員	平日の夜やるのか休日であれば昼になると思いますが、今委員長がいった通り先生の日程を取るのが難しいと思います。夜であればかなり融通が利くのでそこら辺を決めなければ交渉できないと思います。
事務局	聴くには聴けますが、2月であれば空いている日はあると思いますので、平日の夜か土日の昼間かをお願いするかを決めておかなければ、本人と話す時にいつでも良いというわけにはいかないと思います。講演時間は30分くらいで発表団体が3団体ありそのコーディネートを含めてお願いしていただければと思います。
B委員	県の発表は何時から始まりましたか。
委員長	18:30からでした。
副委員長	2月は寒いし凍るので土日の午後の方が良いと思います。
事務局	休日の昼間を第一候補でいきます。
委員長	出る人は夜の方が出やすいと思います。
B委員	層によって昼、夜あると思います。
委員長	確かにあまり遅いと寒いですからね。
B委員	講演会やシンポジウムはあまり長時間ではなく、1時間30分位で盛り上がり終ったような形が良いと思います。先日の県の発表会はどうでしたか。
委員長	表彰式含めて2時間位でした。やはり2時間程度ですね。
事務局	土日の昼間、平日の夜どちらを第1希望にしますか。それと、場所は2階の大会議室が良いですか。
D委員	土日の昼間第1希望で、平日の夜第2希望で良いと思います。
A委員	先程話をした、まちづくり委員会が係わっているならではという事で委員長さんが、たとえば10分や15分でも良いので、手引書の説明をしていただければと思います。
委員長	はい。
A委員	それが無いと今までと一緒に、講演があつて意見発表だけでは今までとあまり変わらないので、まちづくり委員会がそこにどう関わったかが大切だと思いますので、是非お願いします。

委員長	<p>最後に内容についての詰めをしますので、パネラーに自分の発表したい事を出してもらっているので、その中で委員会に係わるという事であれば当然これにふれていかなければいけないと思います。細部については、ネーミングや主催の話は次回決めていきたいと思います。いずれにしても空いているか空いていないかが一番だと思いますので、内容についての手続きもあると思いますので。時間についても30分くらいと話をさせていただきたいと思います。</p> <p>結果について、開催通知に記載いただくようにお願いします。</p>
事務局	解りました。
委員長	先程の話のように企画の部分は委員会という事なので、パネラーはどの方にするか考えてきていただきたいと思います。3人くらい候補をあげたいと思いますのでよろしくお願いします。
委員長	今回は、12月9日(水)午後7時からお願いします。
副委員長	閉会